

令和7年度 墨田区立第四吾嬬小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和8年3月12日 校長 清水 雅也

学校教育目標	◇健康で心豊かな子 ◇よく考え進んで実行する子 ◇力を合わせてつとめをやりとげる子 ◇礼儀正しい子
目指す学校像	◇学ぶ力が伸びる学校 ◇連携・発信する学校 ◇安全・安心な学校
目指す児童像	◇元気でいきいきと学び、運動する子供 ◇協力し合い、認め・高め合う、共生社会の担い手となる子供 ◇地域・社会に貢献する礼儀正しい子供
目指す教師像	◇自ら学び、自己研鑽する教師 ◇教育公務員としての自覚をもち、保護者・地域社会の期待にこたえる教師 ◇「褒める・認める・きちんと諭す」ことができる、あたたかく、厳しく、情熱的な教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容

①学ぶ力が伸びる学校
◇交流行事・授業を通して障害に対する理解を深めるとともに、個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。

②連携・発信する学校
◇「区研究協力校」として、「地域で学ぶ・地域から学ぶ」を合い言葉に、地域教材の開発と地域学習の単元化を推進する。 →大学連携、商店街に関する学習、防災に関する学習 など

③安全・安心な学校

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	①主体的対話的に学びながら、確かな学力を向上させるために、意図的計画的な取組を行う。 ①興味関心をもって取り組める地域教材の開発と単元化の推進。	◇地域で学ぶ・地域から学ぶを合い言葉に、町会・商店街・大学などの諸機関と連携した学習単元を開発し、校内研究授業を年3回実施する。 ◇区研究協力校（一年次）として、取組の成果を区内残光に発信する（紙面発表）。	4 教・保・児ア「わかりやすく楽しい授業・学力向上」 80%以上	4	4 ①研究授業実施状況 事前研究会を含め年間3回実施	4	◇地域の皆さんの理解と協力があつてこそ「地域学習」である。地域社会との良好な関係性を保つべく、地域行事等への協力を進めていく。	◇研究発表会に向けて、教員のカリキュラムマネジメントの力を伸ばしていく。	A	A	◇児童が地域から学ぶことで、地域の一員としての自覚が育まれる。今後も積極的に連携を進めてほしい。協力は惜しまない。
			3 70%以上		3 授業・協議会3回						
			2 60%以上		2 授業のみ3回						
			1 60%未満		1 授業3回未実施						
	②タブレット端末の効果的な使用の推進。	◇タブレット端末等のICT機器を活用したGIGA構想ステップ2の授業・学習を展開する。	4 教・児・保ア「タブレットを活用した学習推進」 80%以上	4	4 ②ICT機器の活用状況 毎日活用（週5日）	4	◇各アンケートの結果から、タブレット等を「効果的かつモラルを守って」活用できる児童の育成を望んでいることがわかる。	◇ICTに関するトラブル防止のために、情報モラル教育の推進を図っていく。	A	A	◇学級閉鎖時のタブレット活用、保護者アンケート等のweb活用等、教員がICT機器の活用に取り組んでいることがわかる。
			3 70%以上		3 週4日程度						
			2 60%以上		2 週2日程度						
			1 60%未満		1 それ未実施						
	③学力向上を目指す各種取組の実施。	◇チャレンジ教室（週2回）、放課後補習教室（週2回）を実施する。 ◇教育研究所提供の各種教材を活用した振り返り学習に取り組む。	4 教・保・児ア「わかりやすく楽しい授業・学力向上」 80%以上	4	4 ③教室実施状況 週2回計画通り	3	◇区教委から提供される各種コンテンツを活用して学力向上に取り組んだ成果が、数値として表れてきている。	◇今後も、教育研究所提供の教材を計画的に活用しながら、学力の向上に取り組んでいく。	A	A	◇低学年を中心とした学習支援員の配置や、各種コンテンツを活用した指導の成果が、徐々に表れてきているように感じる。
			3 70%以上		3 計画の80%程度						
			2 60%以上		2 計画の60%程度						
			1 60%未満		1 計画の60%未満						
	④読書指導、調べ学習の充実。	◇図書館司書（読み聞かせブックトーク）、地域図書館と連携（団体貸出、見学等）し、読書及び調べ学習の充実を図る。	4 教・児・保ア「図書館活用、読書指導」 80%以上	4	4 ④司書、地域図書館の活用状況 双方とも年間3回以上実施	3	◇ICT機器のすぐれた利便性におかれ、調べ学習等における児童の図書活用頻度が低下している。	◇「すきまの時間」も活用しながら図書とふれあう時間を極力確保していく。 ◇学校では「ICT情報と図書資料の特性」に応じた使い分けかたを指導していく。	B	B	◇学校の図書室の利用時間がさらに増えるとうい。地域図書館の活用も継続していただきたい。
			3 70%以上		3 計画の80%程度						
			2 60%以上		2 計画の60%程度						
			1 60%未満		1 計画の60%未満						
①特別な支援を要する児童に対して、組織的な支援を行う。 ①連絡会議の定期開催と迅速な対応。	◇要支援児の実態を把握する連絡会議を月1回実施し、適切な指導を即時行う。	4 教・保・児ア「特別な支援を要する児童への対応・指導」 80%以上	4	4 ①特別支援委員会開催状況 月1回+適宜	4	◇連携会議を確実に開催し、全教員で情報共有したうえで、組織的な指導を進めることができている。	◇教員の情報共有・共通理解がさらに深まるよう、連携会議の確実な実施を継続していく。	A	A	◇支援が必要な児童の情報を共有・共通理解して指導していることが、成果につながっていると思う。	
		3 70%以上		3 月1回							
		2 60%以上		2 隔月							
		1 60%未満		1 それ未実施							
②通常学級と特別支援学級、および医療的ケア児との交流によるインクルーシブ教育の充実。	◇個の特性に応じた学習指導を展開するために、交流授業を積極的に実施する。 ◇交流学習は、体育的・学芸的行事、特活等を中心に常時実施。共生社会の担い手となる児童を育成する。 ◇医療的ケアが必要な児童については、実施検討委員会を中心に意図的・組織的な教育活動を計画推進する。 ◇障害理解の特設授業を実施し、社会性・障がい理解等の伸長を図る。	4 教・保・児ア「特別な支援を要する児童への対応・指導」 80%以上	4	4 ②学習・行事での交流状況 学習・行事とも実施	4	◇医療的ケアが必要な児童への支援・対応について、区教委および関係機関との連携を深めながら、ていねいに進めたい。 ◇通常学級・支援学級間での「相互交流学習」が成果を上げ始めた。	◇医療的ケアが必要な児童の宿泊学習への参加について、合理的配慮の範囲内で可能な対応をしっかりと行っている。 ◇「相互交流学習」については、保護者の理解を得た上で継続実施していく。	A	A	◇支援学級の教員と通常学級の教員が丸となって教育活動を推進している。 ◇通常学級と支援学級の交流学習の充実度は、区内でもトップレベルである。	
		3 70%以上		3 計画の80%実施							
		2 60%以上		2 計画の60%実施							
		1 60%未満		1 未実施							
③特別支援教育に関する関係諸機関との連携。	◇特別支援連絡会議等で指導上困難な状況が発生した場合は、専門機関へ対応の相談・協力を要請する。	4 教・保・児ア「特別な支援を要する児童への対応・指導」 80%以上	4	4 ③必要に応じて、躊躇することなく連絡し、協力を要請する。	4	◇子育て支援センター、児童相談所等の関係機関へ積極的かつ早期に協力を要請することにより、迅速な対応・解決が図れた。	◇学校だけで解決しようとせず、今後も関係諸機関に躊躇せずに連絡・協力要請を行っていく。	A	A	◇専門家の力を借りることは早期の解決につながる。協議会で協力ができる部分があれば遠慮なく声をかけていただきたい。	
		3 70%以上		3 区教委からの要請に応じて連携する。							
		2 60%以上		2 区教委・保護者からの要請に応じて連携する。							
		1 60%未満		1 関連機関との連携は未実施							

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
	○教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組を行う。 ①校内OJTの推進と充実。	◇若手とベテランのペアによるOJT指導の実施。 ◇研修成果の共有化（研究授業・研修受講の成果報告の実施）。	4	教ア「授業力の向上」 80%以上	4	4	①研修成果の報告状況 80%以上	◇校務分掌内のペアリングを工夫したことにより、OJTが円滑に進んだ。	◇1分掌2名体制を継続し、OJTの推進を図っていく。	A	A	◇今後も、効率的かつ効果的な人材育成を進めていきたい。 ◇特に支援学級の教員が、個に応じた教材開発に熱心だと聞いている。
			3	70%以上		3	70%以上					
			2	60%以上		2	60%以上					
			1	60%未満		1	60%未満					
	②管理職による授業観察。	◇日常的な授業観察＋定期的な授業観察の実施。	4	教ア「授業力の向上」 80%以上	4	4	②管理職の授業観察状況 80%以上	◇指導力育成が急がれる教員を中心に授業観察・指導を行った。特に副校長による指導が効果的であった。	◇授業に加えて、引き続き書類作成能力の育成にも取り組んでいく。	A	A	◇授業力はもろろんのこと、社会人としてより一層成長できるよう、若手教員を中心に指導の継続を願いたい。
			3	70%以上		3	70%以上					
			2	60%以上		2	60%以上					
			1	60%未満		1	60%未満					
	○いじめや不登校の予防や解決のための、組織的な取組を行う。 ①全教員の共通認識・理解による問題行動の未然防止・解決。	◇いじめ・不登校の実態を把握する連絡会議を月1回実施し、適切な指導を即時行う。 ◇週1回の生活指導朝会、年3回の児童理解の会により、全教員が全児童の顔・氏名・実態を把握し、共通理解のもとで指導にあたる。	4	教・保・児ア「いじめ・不登校対応、相談対応」 80%以上	4	4	①連絡会・朝会議開催状況 80%以上	◇連絡会議の定期的な開催に加えて、臨時会も随時開催し、迅速に対応する体制が整っている。	◇対応すべき事態が発生した場合は、臨時会議をすぐに招集し、引き続き迅速な対応に努めていく。	A	A	◇単学級がほとんどのため、子供同士の信頼関係が崩れると逃げ場がなくなる。特にいじめ防止には引き続きしっかりとご対応いただきたい。
			3	70%以上		3	70%以上					
			2	60%以上		2	60%以上					
			1	60%未満		1	60%未満					
	②区教委、外部機関と連携し、迅速かつ適切に対応する。	◇連絡会議で把握した案件はすべて区教委へ報告し、連携しながら解決にあたる。	4	教・保・児ア「いじめ・不登校対応、相談対応」 80%以上	4	4	②報告状況 80%以上	◇区教委、関係諸機関と連絡を密に取り合い、早期解決に務めた。	◇特に担当指導主事やSSWが迅速に対応した事案は、解決率が高い。今後も連携を深めていく。	A	A	◇地域の主任児童委員にも、遠慮なく協力を要請していただきたい。協力は惜しまない。
			3	70%以上		3	70%以上					
			2	60%以上		2	60%以上					
			1	60%未満		1	60%未満					
	○基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育の充実を図る。 ①「墨田区でイチバン・カッコイイ小学生になる作戦」を展開し、基本的な生活習慣の徹底を図る。	◇校長のリーダーシップによる「墨田区でイチバン・カッコイイ小学生になる作戦ーグー（粘り抜く）、チョキ（いつもニコニコ、いじめはダメ）、パー（パーッとあかるく元気にあいさつ）」を前期中心に展開する。 ◇学校生活の基本「四吾小のよい子のきまり」の周知徹底。 ◇長期休業明けに生活指導リズムチェックを実施（年3回）し、規則正しい生活習慣の定着を目指す。	4	教・保・児ア「基本的な生活習慣、楽し学校生活」 80%以上	4	4	①児童朝会等で各作戦について月1回以上とりあげる	◇「カッコイイ小学生～」は、前期を中心に校長講話で取り上げた。児童の意識下に定着したと考える。 ◇生活リズムチェックは確実に実施しており、長期休業明けの生活リズムを整える効果は絶大である。	◇しつけに関する事項については、学校での指導が可能な範囲内で取り組んでいく。 ◇場に応じた言葉遣いに関する指導も強化していく。	A	A	◇家庭教育の範囲を学校でカバーせねばならない事態に憂慮している。家庭や地域がなすべき指導をしっかりと行うよう、協議会としても保護者啓発に励んでいきたい。
			3	70%以上		3	隔月					
			2	60%以上		2	3ヶ月に1回程度					
			1	60%未満		1	それ未満					
生活指導等	②道徳授業を通して、心の教育の充実を図る	◇毎週の道徳授業を中心に、互いの人権を尊重する心を養う。	4	教・保ア「道徳、心の教育」 80%以上	4	4	③道徳授業実施状況 80%以上	◇「ほめる・みとめる・きちんと諭す」を合い言葉に、全教員がこの方針に則って指導に励んでいる。◇道徳授業は全学級で計画通り実施できている。	◇今後も、道徳授業および日常生活における指導の中で自己肯定感を育む指導を推進していく。	A	A	◇道徳等の指導を通して、仲間を大切にすること、自分に自信をもてる児童を育成していただくことを期待する。
			3	70%以上		3	70%以上					
			2	60%以上		2	60%以上					
			1	60%未満		1	60%未満					
	○児童の健康・安全を確保するための各種取組を行う。 ①健康・安全な生活環境づくりの推進。	◇月1回の保健指導・安全指導の確実な実施。	4	教・保ア「児童の健康・安全に関わる取組」 80%以上	4	4	①実施状況 80%以上	◇養護教諭の産休取得に伴う引き継ぎ期間中に、保健指導が計画的に実施できない月があった。	◇来年度は、保健指導を計画的かつ確実に実施していく。	B	B	◇自らの健康・安全を守るために重要な指導である。引き続き確実な実施をお願いしたい。
			3	70%以上		3	70%以上					
			2	60%以上		2	60%以上					
			1	60%未満		1	60%未満					
	②食育・アレルギー対策の充実。	◇食育の充実を図り、残菜率の常時10%以下を目標とする。 ◇アレルギー対象児童は、年1回の保護者面談を実施。組織的な対応の徹底を確認する。	4	教・保ア「児童の健康・安全に関わる取組」 80%以上	4	4	②実施状況 80%以上	◇食物アレルギー対応研修、保護者面談は確実に実施した。アレルギー自己ゼロを継続中である。	◇引き続き研修、面談を確実に実施する。 ◇残滓率は、メニューによる偏りを減らせるよう努力する。	A	A	◇アレルギー事故は、児童の命に直結する事故である。今後も確実な対応をお願いしたい。
			3	70%以上		3	70%以上					
			2	60%以上		2	60%以上					
			1	60%未満		1	60%未満					
	③防災教育の実施。	◇戦災・震災の教訓をふまえた平和学習を年間1回実施する。 ◇学校独自の防災体験教室やPTA主催の防災お泊まり学習会を実施する。	4	教・保ア「児童の健康・安全に関わる取組」 80%以上	4	4	③実施状況 80%以上	◇地域人材を活用した防災教育を実施した。年1回の平和学習も、郷土資料館学芸員の協力により実施できた。	◇防災士資格をもつ地域人材の活用等、現在の取り組みを継続していく。	A	A	◇防災教育の積極的な取り組みは評価できる。今後も地域人材・組織を活用して、継続的に取り組んでいきたい。
			3	70%以上		3	70%以上					
			2	60%以上		2	60%以上					
			1	60%未満		1	60%未満					
	○経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営の徹底を図る。 ①分掌組織内でのOJT推進。	◇OJTが円滑に進むよう、職層を意識した組織（複数人員担当制）を編成する。	4	教・保ア「組織的な学校運営」 80%以上	4	4	①OJT実施状況の報告・確認状況 週1回	◇1分掌2名体制の校務分掌組織を編成したことにより、OJTが効率的かつ効果的に実施できた。	◇本年度の体制を継続する。また、分掌内のペアリングを教員の職務遂行能力に応じて、年度途中でも変更していく。	A	A	校長を中心とした教員の協働体制がよくなってきていることが、学校運営にもあらわれている。
			3	70%以上		3	隔週1回					
			2	60%以上		2	月1回					

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
学校の管理運営			1	60%未満		1	それ未満						
	②教育活動の適切な実施状況を確認する。	◇毎週、校長・副校長2名で週案簿を確認し、教育活動の適切な実施を確認・指導する。	4	教・保ア「組織的な学校運営」 80%以上	4	4	②週案簿提出状況 100%	4	◇週案簿の提出率は100%である。提出された週案簿には、管理職からのひとこと・助言を記入している。	◇週案簿点検・指導に加えて、毎日の校内巡回・授業観察の実施も継続していく。	A	A	◇様々な形で管理職の点検・チェック機能がはたっていることは心強い。
			3	70%以上		3	80%以上						
			2	60%以上		2	70%以上						
			1	60%未満		1	70%未満						
	③主任・主幹の経営参画意識を高める。	◇教員の特性・力量を勘案しながら、主幹・主任に学校運営に関わる責任ある役割を与え、参画意識と職務遂行能力の向上を図る。	4	教・保ア「組織的な学校運営」 80%以上	4	4	③役割を与える主幹・主任の割合(対象9名) 80%以上	4	◇主幹および将来的に管理職を目指す教員に、責任ある役割を担わせた。その結果、校内研究や体育の分野で力量を伸ばした教員が複数名いる。	◇個々の力量やキャリアプランに応じて、今後も適切な役割を担わせていく。	A	A	◇管理職が中心となり、これからも次代を担う教員の育成に取り組んでいただきたい。
			3	70%以上		3	70%以上						
			2	60%以上		2	60%以上						
			1	60%未満		1	60%未満						
	○適切な教育目標・学校経営計画の設定及び評価を実施する。 ①児童の実態・区の施策等に即した教育目標・経営計画の設定。	◇外部評価、各アンケートを総合的に分析し、毎年度末に次年度目標及び経営計画現化策を再設定する。	4	教・保ア「経営計画の策定、評価の実施」 80%以上	4	4	①学校経営計画、各評価項目の点検・改定状況 双方とも毎年実施	4	◇「不易」の部分である教育目標は変更せず、めざす学校像・経営方針の部分で「流行」に応じた新たな対応策を導入した。	◇教育目標については、開校100周年を機に変更することも視野に入れている。	A	A	◇学校教育の根本である教育目標を改定する際には、地域や保護者の願いも生かしていただきたい。
			3	70%以上		3	双方とも隔年実施						
			2	60%以上		2	どちらかを毎年実施						
			1	60%未満		1	どちらかを隔年実施						
	②学校経営計画に即した評価項目の設定と実施。	◇学校経営計画と評価項目の整合性を毎年点検・改善する。 ◇児童、保護者、教員アンケート及び外部評価(学校関係者評価)を適切に実施・分析し、学校経営の改善に資する。	4	教・保ア「経営計画の策定、評価の実施」 80%以上	4	4	②学校経営計画、各評価項目の点検・改定状況 双方とも毎年実施	4	◇経営計画と評価項目が整合するように、各アンケート・外部評価項目の精査を実施した。	◇各項目の評価に数値目標が設定された。今後も、客観的な評価が実施できるよう、必要に応じて項目や基準の見直しを進めていく。	A	A	◇数値のみにとらわれず、自由記述意見もおおおいに参考にし、よりよい学校経営を推進していただきたい。
			3	70%以上		3	双方とも隔年実施						
			2	60%以上		2	どちらかを毎年実施						
			1	60%未満		1	どちらかを隔年実施						
	○教育環境・施設設備等の整備と有効活用を行う。 ①教室環境・施設設備の安全確認の徹底と有効活用の促進。	◇月1回の施設安全点検の徹底(管理職が自らの目で最終確認を行う)。 ◇修理・改修が必要な施設については、管理職がその状況や理由を役所担当者に直接説明し、迅速な改善を図る。	4	教・保ア「施設・防犯・災害対応の整備」 80%以上	4	4	①安全点検実施状況 月1回+適宜	4	◇施設設備の安全点検および修繕等は、確実に実行できている。	◇防災設備(火災報知器)の老朽化が目立つので、引き続き改修を要望していく。	A	B	◇不審者出沒に備え、防犯設備・用品の整備もお願いしたい。
			3	70%以上		3	月1回						
			2	60%以上		2	隔月						
		1	60%未満	1		適宜							
○職員の心身の健康を守る労働環境づくりを推進する。 ①超過勤務時間縮減の推進。	◇出勤時刻の記録を分析・提示し、超過勤務月40時間以内の実現を目標とする。	4	教ア「健康・安全に働ける環境づくり」 80%以上	4	4	①超過勤務実態の状況(40時間以内の割合) 90%以上	3	◇副校長の適切な労務管理により、超過勤務時間の縮減が進んだ。	◇今後は、繁忙期における超過勤務時間の縮減が課題となる。教員には、1週間のスパンで勤務時間のバランス調整を行うよう指導を継続していく。	A	B	◇学校外で起きた事案への対応、長時間の保護者対応など、教員に過度の負担が生じないように、教育委員会と連携してご対応いただきたい。	
		3	70%以上		3	80%以上							
		2	60%以上		2	70%以上							
		1	60%未満		1	70%未満							
②育児休業取得の推進。	◇男女を問わずに育児休業を取得しやすい協働的な職場環境・体制の実現を目指す。	4	教ア「健康・安全に働ける環境づくり」 80%以上	4	4	毎月、取得推進を呼びかける	4	◇男女を問わず育児休業が取得できることの周知に努めた。 ◇産休代替教員の前倒し任用制度を利用し、時間講師を任用することができた。	◇来年度は、男性教員1名が短期間(1ヶ月以内)の育児休業を取得予定である。教員補充等の対応策を早期に計画・実施していく。	A	A	◇今後も、男性が育児休業を取得しやすい環境づくりに努めていただきたい。	
		3	70%以上		3	3ヶ月に1回、取得推進を呼びかける							
		2	60%以上		2	半年に1回、取得推進を呼びかける							
		1	60%未満		1	それ未満							
③メンタルチェックの実施。	◇メンタルチェック(年1回実施)の結果を分析し早期発見に努め、必要に応じて早期受診を勧める。	4	教ア「健康・安全に働ける環境づくり」 80%以上	4	4	③面談等の実施状況 半年に1回以上	4	◇男性教員1名が7月より病休取得。5月復帰を目指して復帰訓練進行中。	◇今後も、管理職立ち会いのもと、主治医との面談・復帰訓練計画策定・訓練への立ち会いに臨んでいく。	A	A	◇個によって様々な要因が引き金になると考える。メンタル不調の兆候を見逃さぬよう、早期発見・対応に努めていただきたい。	
		3	70%以上		3	1年に1回以上							
		2	60%以上		2	適宜							
		1	60%未満		1	未実施							
○学校に関する情報を積極的に発信する取組を行う。 ①学校便り、学校HP、各学級通信等を通して、学校情報を発信する。	◇紙媒体とHP(保護者ページを含む)での公開を併用する。 ◇HP掲載内容の充実を図るとともに、月2回以上の更新をする。 ◇写真等を活用し学校生活の様子を可視化する。	4	教・保ア「複数媒体での情報発信」 80%以上	4	4	①各種より・HPでの情報提供頻度の状況 目標の90%以上	4	◇情報の種類・性質によって、メール・HP発信、紙媒体発信、双方での発信と、効果的な方法で情報を伝達した。	◇メールの活用、HPの充実への取り組みは、今後も継続していく。	B	B	◇保護者はメール配信を希望しているが、情報の種類によっては紙媒体が適切な場合もある。発信方法は効果的に使い分けていただきたい。	
		3	70%以上		3	80%以上							
		2	60%以上		2	70%以上							
		1	60%未満		1	70%未満							
○保護者や地域の理解・協力を得た教育活動を推進する。 ①地域連携学習・大学連携学習の継続。	◇高学年では、IU大学、千葉大学との連携授業を各1回実施。 ◇中低学年では、キラキラたちばな商店街との連携授業、まちおこし事業者との連携授業を実施。	4	教・児・保「地域でまなぶ・地域からまなぶ学習」 80%以上	4	4	①各授業の年間実施状況 全学年1回以上	4	◇学年、児童の実態に応じた地域教材を開発・単元化したうえで検証授業を行った。研究協力校1年目の取り組みとして、全職員で研究に励んだ。	◇開発した地域教材を指導時期・指導領域等に着目し、体系化に取り組んでいく。	A	A	◇来年度もどきどき地域に出向き、地域の良さを学んでほしい。体験したいことがあれば、職業体験的な活動も提供したい。	
		3	70%以上		3	全学年1回以上							
		2	60%以上		2	一部学年のみ実施							

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価				
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等		
家庭・地域連携	②PTA行事実施への支援。	◇PTA・地域行事開催への協力と参加。	1	60%未満		1	実未実施						
			4	教・保・児ア「PTA・地域との相互協力」 80%以上	4	4	③PTA活動への協力・参加実施状況 80%以上	4	◇学校・保護者・地域が円滑に連携できるよう、施設提供・運営への助言を行った。	◇今後も、お互いが可能な範囲内で相互協力していけるよう、良好な関係を築いていく。	A	A	◇PTA、親父の会、各町会と連携していただき感謝している。各行事の企画運営もスムーズにできているこ。
			3	70%以上		3	70%以上						
			2	60%以上		2	60%以上						
	1	60%未満	1	60%未満									
	○幼保小中一貫教育の推進。 ①研究授業を含めた新計画の完全実施。	◇連携校で年3回の授業公開を実施。 ◇幼保園との交流（学校見学の受け入れ等）の再開。	4	教・保ア「幼保小中の連携」 80%以上	4	4	①連携事業の実施状況 計画の90%以上	4	◇年間3階の授業公開・研究協議が実現した。教員の相互理解（個人レベル、校種レベル）が深まった。 ◇幼保園の学校見学・行事見学等を積極的に受け入れた。	◇今後も可能な範囲で連携強化に努めていく。授業公開の実施回数は維持していく。	A	A	◇地域の力が結集する場として、文花中地区の活動を充実させていく。今後もご協力願いたい。
			3	70%以上		3	80%以上						
			2	60%以上		2	70%以上						
			1	60%未満		1	70%未満						
	②児童・生徒連携の充実。	◇中学校体験・見学（部活体験含む）の企画・実施。 ◇あいさつ運動、育成委員会事業等での交流。職場体験の受け入れ等。	4	教・保ア「幼保小中の連携」 80%以上	4	4	②連携事業の実施状況 計画の90%以上	4	◇中学校体験・見学（部活体験含む）、あいさつ運動、職場体験の受け入れ等を実施した。	◇各校の行事予定の調整が許す範囲で、今後も本年度の取り組みを充実・継続していく。	A	A	◇幼小中の学校間交流以外にも、大学連携を進めていることをおおいに評価する。
			3	70%以上		3	80%以上						
			2	60%以上		2	70%以上						
1			60%未満	1		70%未満							

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（◇評価者の自由意見 →学校としての回答）

- ◇管理職を中心にPTA活動への協力体制がしっかりしているからこそ、PTA行事がスムーズに行えている。2年後の開校100周年にむけても貴重なアドバイスをいただけていることにも感謝している。
→学校・保護者・地域が「ウィンウィン」の関係を保てるよう、協力は惜しまない。ただし、働き方改革の関係上、時間的な制約が出てくることはご理解いただきたい。
- ◇児童の学力が向上することで、児童が自信をもち、自ら学ぶ、学ぼうとする力が伸びてきた。これからもすすんで勉強にはげむ人となればよい。興味をもつ・もっと知りたいとすすんで探求する人へと成長してほしい。
→基礎的・基本的事項の学習はもちろん、体験学習、調べ学習、発表学習等、様々な学習・指導方法を開発し、子供たちの学ぶ力を伸ばしていく。
- ◇下校時に児童達に「おかえり」と声をかけると、初めは無言で通り過ぎていた子も「ただいま～」、「こんにちは～」と挨拶してくれるようになって、たいへんうれしい。
→「挨拶は心の窓」とも言われている。今後も気持ちよい挨拶ができる児童の育成に努めていく。
- ◇地域との連携について、文花中学校地区内における他団体との情報共有や交流活動を含め多様な取り組みを実践しているようだ。また、商店街や大学などの地域素材を積極的に活用し、児童が興味をもって学習に取り組める仕組みを進めているように見受けられる。
→研究協力校の取り組み（地域教材の開発）を進め、地域の良さを「知る・体験する・発信する」人材の育成に努めていく。
- ◇区学力調査の結果が区内でも上位に位置しているというのはとても喜ばしい。今後も、「学ぶ力が伸びる学校づくり」に励んでいただきたい。
→自分の心が満たされている児童は、他者を攻撃することはなく、思いやりある行動がとれる。今後も「ほめる・みとめる・きちんと諭す」教育を進め、何事にも意欲的に取り組める自己肯定感・有用感にあふれる児童の育成に励んでいく。
- ◇文花中地区では四吾婦小の存在・影響力がたいへん大きい。管理職・教員の異動後もこの流れが滞らぬよう、引き継ぎをしっかりとリーダーシップをとっていただきたい。
→地域の力の結集が、住民の「安全・安心」を守り、皆に愛されるコミュニティを形成する。そして、地元を愛する人間を育てる。学校は、引き続き地域発展のため、自らの果たすべき役割を全うしていく。